

こそあめれど、あやしのものどものしもをかぎれるまなども、よろこびをみさかえたり、

〔百練抄三四〕長和三年五月十六日、行幸左大臣藤原道長上東門第覽競馬騎射、

〔日本紀略後十三〕寛仁二年十月二十二日辛亥、天皇幸前太政大臣上東門第、太后後一條同興皇

太后子中宮子兼渡座、皇太弟後朱雀行啓、帝先御馬場殿、令走左右御馬、次歸正殿、召文人賦詩、題

云、經霜知菊性以曉、序者式部大輔廣業朝臣、又召擬文章生等、奉試賦詩、題云、翠松無改色以貞、前太

政大臣獻題、又伶官奏樂奏舞、家司等賜爵、夜深乘輿還宮、左右御馬十疋又見左經記、百練抄、

○按ズルニ、太后同興ハ、天皇御幼冲十一ナルニ依テナリ、

〔榮花物語二十三〕はかなく九月元萬壽にもなりぬ、關白殿藤原賴通高陽院高陽院のにて、こまくらべ

せさせ給て、行幸一條後行啓あるべき御いそぎあり、いとゞまきとのゝありさまを、心ことにはら

ひみが、せ給程いへばおろかにめでたし、此世には冷泉院京極殿などをぞ、人おもしろき所と

思ひたるに、高陽院殿のありさまこの世のこと、見えす、かいらうわうの家などこそ、四季は四

方にみゆれ、此殿はそれにおとらぬさまなり、れいの家づくりなどにもたがひたり、寢殿の北南

西東などにはみないけあり、なかじまに釣殿たてさせたまへり、東のたいをやがてむまばのお

とゞにせさせ給てそのまへに北みなみさまに、むまばせさせ給へり、めもはるかにおもしろく

めでたき事、心もおよばすまねびつくすべくもあらず、おかしうおもしろしなどは、是をいふべ

きなりけりとみゆ、繪などよりはこれは見所ありておもゑろし、大宮後一條京極殿におはし

ませば、九月十四日の夜、やがて高陽院殿にわたらせ給、中略おなじ月の十九日九誤駒くらべ

せさせ給、日ごろだにありつる人、けふはとりわきめでたし、みかどのおはしますべき大床子、寢

殿の南おもてにたて、御座よそひたり、みるときばかりにぞ行幸ある、御階に御輿よせており

させ給、さておはしましてゐさせ給て、春宮おはします、陣のどにて事のよし奏して、御車陣にて